

What's up,

OITA!

(どげえかえ、ふるさと大分！)

世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

《Vol. 72》2019年2月発行

なつかしい我が故郷～大分ふるさと写真館～

【宇佐市／豊後大野市】



(宇佐市)
安心院の朝霧



(宇佐市)
東椎屋の滝



(豊後大野市)
神楽会館



(豊後大野市)
普光寺磨崖仏

「別府アルゲリッチ音楽祭」ローマ公演が開催されました

大分が世界に誇る「別府アルゲリッチ音楽祭」が、ローマで昨年12月に開催されました。

第20回記念事業として開催したもので、在伊日本国大使館、ローマ日本文化会館、サンタ・チェチリア・国立アカデミアも全面協力、祝祭的雰囲気の中大盛況となりました。



↑「おおいたのタベ」



↑ローマ日本文化会館での大分特別展示

ローマと大分の交流の歴史は長く、大友宗麟が1551年に、ローマ・イエズス会のフランシスコ・ザビエルを庇護した時に遡ります。「南蛮文化」が栄えた府内(今の大分市)では、日本人による西洋音楽が初めて奏でられ、また、宗麟らキリシタン大名は、天正遣欧少年使節をローマ教皇の元に派遣しました。現在でも大分は、バチカン図書館と、キリシタン関係文書の国際研究事業「マレガ・プロジェクト」を通じた学術交流を行っています。

同国立アカデミアが運営するオーケストラの総監督マエストロ・パッパーノは音楽祭の常連ですが、公演で「大分とローマは460年の交流の歴史がある」と語り2800名の満員の聴衆から感嘆と温かい拍手が湧き起こりました。

公演後のレセプション「おおいたのタベ」では、夜遅くにもかかわらず招待客や出演者約200名が県関係者と交流、アルゲリッチも駆けつけ華やかで充実した会になりました。

ローマ日本文化会館での特別展示会や大使公邸でのミニ公演&交流会も盛況で、新聞・テレビ等現地メディアからも数多く取り上げられ、今後のローマとの交流に大きな期待が寄せられました。

【芸術文化・スポーツ振興課】

ティーウェイ航空 大分～プサン・ムアン線が就航しました

大分-ソウル便をデ일리ー運航している韓国のLCC「ティーウェイ航空」が、2018年12月22日に、新たに大分-プサン線・ムアン線を就航しました。

これにより、大分県は、首都ソウル、第二の都市プサン、南部の地方都市ムアンと、韓国の3つの都市とダイレクトにつながるようになりました。

韓国からの旅行客の皆さんは、温泉、ゴルフ、グルメなど、思い思いの大分の旅を楽しまれています。

お得なLCCで約1時間の空の旅は、思い立ったら気軽に出発できるので、リフレッシュやエネルギーチャージにお勧めです。

空気もおいしい温泉県で、皆さまのお越しをお待ちしています！ぜひティーウェイ航空を利用して、冬でも暖かい大分にいらしてください。

また、現在、釜山・光州市内で就航路線のPRを展開しています。

2月は、釜山でケーブルテレビ番組、光州で映画館での上映前CMにより、大分の情報を発信します。ぜひご覧ください！

【交通政策課】



t'way



2月に入ると、県南部には河津桜が咲き、早くも春の便りが届きます！



遠隔操作ロボット「アバター」で、マレーシアに向けて観光PRを実施しました

離れた場所にあるロボットを使って、あたかも自分がそこにいるかのように人と会話したり、作業をしたりすることができる「アバター」技術をご存じでしょうか。県では、ANA社などと共に、遠く離れた人や場所を繋ぐ「アバター」技術の実用化に向けた取組を進めています。

1月10～11日、その一環として、豊後高田市の「昭和ロマン蔵」に「アバター」を配置し、マレーシアの日本旅行フェアの会場から、遠隔で見学する取組を行いました。当日は、国際交流員のシエがガイドをつとめ、約4,500kmの距離や国境を超えて、「アバター」で来県いただいた方へ、昭和の町を楽しんでいただきました。



マレーシアの会場から「アバター」をパソコンで操作している様子



「昭和ロマン蔵」内を見学している様子

【情報政策課】

ジャマイカ大使が知事を表敬訪問されました

1月17日に、リカルド・アリコック駐日ジャマイカ大使が来県され、知事を表敬訪問しました。アリコック大使は、東京五輪に向け、企業・学校等と連携し、世界の国々を表現した着物を制作する事業「KIMONO PROJECT」に参加している大分商業高校を訪問するために来県されました。大分商業高校は、同校100周年記念行事として本プロジェクトに参加、生徒アンケートの結果1番人気となったジャマイカをテーマ国に選定しました。



ジャマイカ着物デザイン

アリコック大使は初めての来県で、「自然豊かで温かい人々の多い大分県を訪問できてうれしい。残念ながら今回は日帰りだが、次回は家族を連れてゆっくり訪問したい」と仰り、終始和やかな表敬となりました。

春節祭が行われました

1月21日に大分市のガレリア竹町ドーム広場で「春節祭inおおいた」が開催されました。このイベントは大分華僑華人会が主催するもので今年で6回目の開催になります。

オープニングでは大分市の佐藤市長や中国駐福岡総領事館の康副総領事が参加し、開会のテープカットが行われました。ステージでは獅子舞、太鼓、中国民族舞踊などが行われ、会場では民族衣装の試着や中国料理の販売などもありました。最後に九州－上海間の往復航空券などが当たる抽選大会が行われ、会場は春節ムードに包まれ大変盛り上がりました。



市町村からのお知らせ【日田市】

〈幸福度世界一の国に学ぶ幸せレシピ〉

平成30年11月16日、内閣府平成30年度地域コアリーダープログラム団員に選ばれた地域おこし協力隊の上戸木綿子さんが「フィンランド派遣報告会」を開催しました。

上戸さんは作業療法士でもあり、障害福祉分野で派遣され、10日間の現地訪問を中心に「個を大切に育むオーダーメイドの教育や福祉に平等感や自己実現の自由さを学びました。障害者が支えられるだけでなく、その道のベテランとして尊重されていて、彼らができることを行って社会を支えている姿に生きる誇りを感じた」と写真や事例を交えて報告し、「属性ではなく、個人の力や自己決定を大事にするフィンランド社会。その在り方から学んだ幸せレシピを自分ができることから広めたい」と話しました。



〈平成31年天領日田おひなまつり〉

江戸幕府の西国筋郡代の役所が置かれ、九州随一といわれるほどの繁栄を極めた天領日田。

掛屋を中心とする豪商たちが活躍し、町人文化が花開いた日田の旧家には、京や大阪で買求めた絢爛豪華なひな人形やひな道具の数々が今も残されており、おひなまつりの期間中、豆田町や隈町の旧家や資料館でひな人形やひな道具を、一斉に展示・公開しています。

春のひとつき、昔ながらの町並みに風情を感じながら、ゆったりとおひな探しに出掛けてみませんか。

【開催時期】

平成31年2月15日(金)～3月31日(日)

【開催場所】

豆田町、隈町、天瀬町の各資料館・施設

【日田市 まちづくり推進課】



Pick Up! 大分の「今」

県内の出来事（1月）

News

【1月7日（月）】「住みたい田舎」豊後高田市が総合1位！

移住希望者向け月刊誌「田舎暮らしの本」（宝島社）の企画「2019年版住みたい田舎ベストランキング」（人口10万人未満）で、豊後高田市が総合部門1位を獲得しました。豊後高田市は5年連続で人口社会増を達成した理由を同市地域活力創造課は「高校までの医療費と幼小中の給食費無料化で子育て世代の心をつかんだ」としています。また、臼杵市はシニア世代と若者世代の部門別順位で2冠を獲得しました。

News

【1月10日（木）】名称決定「バスどこ大分」

県バス協会は去年の3月から、大分交通・大分バス・亀の井バスの3社のバスの運行状況をスマートフォンで確認できるバスロケーションシステムを運用しています。同協会は10日、このシステムの名称が「バスどこ大分」に決まったと発表しました。同システムは訪日外国人客の利用を見据え、日・英・韓・中（簡体字、繁体字）の5つの言語で対応しています。

News

【1月15日（火）】おおいたラグビーW杯学校給食の日

ラグビーワールドカップ（W杯）日本大会で、1次リーグを大分会場で戦う国・地域の料理を提供する「おおいたラグビーW杯学校給食の日」が15日、県内の小中学校などでスタートしました。県内の高校生が考えた53種類のアレンジ料理のレシピを基にした給食が各校で提供されます。このイベントは10月まで続きます。

※国際政策課にて新聞等を元に作成

「大分で会いましょう。」プロジェクトからのお知らせ

★「大分で会いましょう。」オリジナルTシャツ、写真集「大分で猫に会いましょう。」販売中★

全国から多彩なゲストを迎えて、大分各地で楽しいおしゃべりを繰り広げるスタジオトークとツアーのシリーズ「大分で会いましょう。」。プロジェクトのオリジナルTシャツが好評発売中です。

ミーティングツアーvol.2ゲストの小林エリカさん（漫画家・作家）やvol.4で佐伯を旅した指出一正さん（月刊『ソコト』編集長）と淀川テクニク/柴田英昭さん（アーティスト）の描き下ろしドローイングTシャツを始め、「oita.love」のロゴ入りTシャツも販売しています。

また、スピンオフ企画・写真集「大分で猫に会いましょう。」も好評発売中です。ツアーVol.1でゲストとしてお迎えしたモデルの前田エマさんが、大分大学写真部の吉江丞晴さんとともに佐伯市深島を訪問。ダイビングの聖地として有名な一方、近年では「猫の楽園」としても知名度が高まっている深島の、個性豊かに暮らす猫たちの表情を捉えました。様々な人と場所との出会いを通じて実現した、「大分で会いましょう。」ならではの写真集です。

詳細はこちら

「大分で会いましょう。」公式ホームページ <https://oita.love/>



【広報広聴課】

From our Reporters



県の国際交流員が、旬なOITA情報をお届けします。



金 眞雅
(Kim Jina)

大分空港に去年の12月22日から韓国の釜山(プサン)と務安(ムアン)を結ぶ定期便が就航しました。韓国の地方から大分へのアクセスが便利になり、日本の方もソウル以外の地方に気軽に行けるようになりました。この度はその路線の利用促進のため、県内の各種メディアに取材していただくことになり、釜山と務安から近い「光州」へ同行してきました。私も初めて食べるプサンの名物料理「ナッコプセ」をはじめ、「機張カニ」、「竹筒ご飯」などおいしいグルメと「海上ケーブルカー」や「竹緑苑」など定番の観光スポットから最近人気のホットなスポットまでたくさん巡ってきました。気になる取材内容は2月9日の「ハロー大分」と「れじゃぐる」で放送される予定です。近々「月刊プラザ」と「大分合同新聞」にも紹介される予定です。ぜひお見逃しなく！



セーラ・バックレイ
(Sarah Backley)

最近の天気の良い日を最大限に活用するために、1月19日に別府市の城島高原パークでアイススケートをしに行きました。二つの山の麓にある壮観な景色を望む九州最大の屋外アイススケートリンクでした。

着いてから最初に気づいたのは、スケートをしている人々の能力にどれだけの差があったかでした。スケートリンクの周りを一切離さずにゆっくり回っていた初心者もいれば、中心でプロのような回転ジャンプをしている人もいました。このような晴れた日に行く唯一の悪いところは、氷が早く溶けることです。私も含めて、転んだ人は一気に浸かってしまいました！

翌日は筋肉痛でしたが、大分市からたった40分で着く自然ど真ん中の珍しいアイススケート経験だったので、おすすめです！



方 応梅
(Fang Yingmei)

先週、大分市にある七瀬川自然公園で開かれる「第27回七瀬川どんど焼き大会」を見に行くために、土曜日の四時頃、開催地に着きました。とても広くてきれいな七瀬川自然公園をゆっくり見回りながらどんど焼きの開会式を待っていました。あっという間に見に来た人々で大変賑わっていました。挨拶と神事をそれぞれして、モウソウ竹や杉の葉で作った高さ約10メートルの「どんど」に二人の年男と年女によって、点火されました。来場者が持参した正月飾りやお守りを火に放ち、一年間、無病息災、商売繁盛、家内安全、学業成就などを祈願しました。行事が終わって、みんなもらったぜんざいを味わいながら、餅を竹の先に刺して焼いて食べているので、非常に面白かったです。



シェ シンラン
(Xie Xin Lan)

最近、みじん切りにした椎茸、人参、豚の軟骨の豆板醤煮を入った炊き込みご飯を作ってみました。椎茸は中国南部の広東省の人々に好物だと思われていて、広東生まれの私にとっては椎茸が郷愁を誘う食材です。

そのため、オーストラリアに移住してからもよく椎茸を使ったお料理を食べていました。肉質の締まりに優れて、香りはよく風味も強いのは特徴で、洋食に広く使われるマッシュルームの食感とかなり異なっています。昔は食生活が違うオーストラリア人の間にあまり食べられなくて、乾物しかなか手に入れなかったが、近年、バター焼きやリゾットなどの料理に椎茸を生かして様々な新たな試みを始めました。大分の名物の椎茸は、これからもオーストラリア人の食卓により多く登場するのでしょうか。そう考えれば、楽しみで仕方がなくなります。



～編集後記～

今年4月から、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人材に関し、就労を目的とする新たな在留資格が創設されます。中小企業等の人手不足が深刻なことから、外国人材の円滑な受け入れの促進とともに、地域における外国人との多文化共生に向けた環境整備がより必要となってきます。現在、大分県在留の外国人数は約1万2千人で、その約3分の1が留学生です。本県では留学生と地域との交流実績があることから、この実績やノウハウを活かして、今後外国人が増加する県内各地に多文化共生の取り組みを広げていきたいと考えています。

(国際政策課長 徳野 満)

県内の最新の観光情報はこちらからご覧ください！

(ツーリズムおおいたHP)
<https://www.visit-oita.jp/>

話題提供のお願い！

県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください！

(様式は任意です)

【記事提供/お問い合わせ先】国際政策課 担当:小野

【Mail】 a10140@pref.oita.lg.jp